

## 第9回全日本教育系学生バドミントン選手権大会：優勝者のことば



### 男子シングルス 西野 勝志 (筑波大学)

最後の全日本教育系バドミントン選手権大会において、男子シングルスで優勝することができました。4年目にしてようやく掴んだ結果であり、後輩たちにも刺激になったと思います。残りの学生生活を有意義に過ごし、筑波大学バドミントン部を支えるとともに新たな舞台で活躍できるよう、これからも頑張っていきます。



### 男子ダブルス 森田新太郎・高上 麟龍 (筑波大学)

今回の試合は「ダブルス2連覇する」という強い気持ちで挑みました。結果的にその目標を達成することができ、非常に嬉しく思います。しかし、まだまだ課題が多く残る試合でもありました。今回の結果に満足せず、令和2年の試合も1試合でも多く勝てるように努力していきたいです。最後に大会を運営していただいた、日本教職員バドミントン連盟の方々や、当番校であった日本女子体育大学バドミントン部の皆様に感謝申し上げます。(森田)

優勝を目指してパートナーと練習の時から戦術やプランをたて、本番で自分達の力を出して優勝することができたのでよかったです。来年はシングルスでも優勝したいです。(高上)



### 女子シングルス 香山 未帆 (筑波大学)

本大会は、試合数の多さと試合間隔の短さから、東日本学生バドミントン選手権大会や全日本学生バドミントン選手権大会よりも過酷な大会であると思っています。その大会で、こうして優勝することができて、大変嬉しく思います。また、試合の運び方も納得のいくものであり、去年と比べて成長したなと感じるとともに、2019年を優勝で締めくくれたことは、新たに迎える2020年にいい影響を与えてくれると思いました。今回は年末の開催ということもあり、大変なご苦労があったと思います。運営にご尽力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



### 女子ダブルス 大関 令奈・大石 悠生 (筑波大学)

今回はダブルスにおいて優勝しなければならないという緊張感の中で、1ゲームも落とすことなく優勝できたことに喜びを感じています。2人で常に声を掛け合い、相手によって戦術を変えたりしながら戦えたことは、ペアとしてはもちろん、自分自身としても成長した証であると考えます。今回の優勝を糧として、来年度の私にとって最後の全日本学生選手権大会で団体6連覇、個人戦ダブルス優勝を目指し、日々精進していきます。(大関)

今大会、優勝することができて嬉しいです。途中途中苦しい場面もあったのですが、試合中に戦術など考えて進めることが出来たので今年最後の試合で自分に少し成長が見えた大会でした。ですが、この結果に満足せず次に向けて自分の課題を改善していきたいと思っています。(大石)